

松下幸之助記念財団 研究助成  
研究報告

(MS Word データ送信)

【氏名】

齋藤祐実

【所属】(助成決定時)

愛知大学

【研究題目】

1970年代・80年代の反戦・反軍事化・反植民地主義を掲げたハワイでの市民運動の高揚

【研究の目的】(400字程度)

本研究は1960年代の終わり頃から取り組まれるようになったハワイの市民運動の連続性・非連続性を解明することを目的としている。ハワイでは1940・50年代では財閥の解体や政治・経済を支配していた白人権力に対抗し、民主化を促すための運動が展開された。1960年代の終わり頃からは、公民権運動に触発され、ベトナム戦争の反戦運動、ハワイの土地開発・観光化・軍事化に反対しハワイの古来の土地や自然を守ろうという内容の社会運動、そしてネイティブハワイアン文化復興や主権回復運動が高揚した。先行研究では、反戦運動や先住民運動に焦点が当てられてきたが、本研究では反戦運動から派生して盛り上がった学生運動とアフリカ系住民の動きに注目することで、新たな運動像を提供することを試みた。またアフリカ系住民の活動を考察し、社会運動との関わりやハワイ社会との関係を明らかにすることで、ハワイの人種・エスニシティ研究やアフリカ系アメリカ人研究に新たな発展をもたらすことを期待する。

【研究の内容・方法】(800字程度)

本研究期間中は、1970・80年代のアフリカ系住民の活動や彼らと他のエスニックグループとの関係を明らかにするため、①チャールズ・M・キャンベル(Charles M. Campbell、以下、キャンベル)②Black Student Union(以下、BSU)③その他のアフリカ系住民・団体に焦点を当てた。①キャンベルは1960年代の半ばに人種問題に取り組むため、ハワイ内で活動を行なっただけでなく、本土で展開されていた公民権運動に参加した高校の教師で、1968年に初のアフリカ系ホノルル市議会議員となった人物である。キャンベルの1960年代の終わり頃からの活動や彼の思想に注目した。②BSUはハワイ大学内でアフリカ系の学生の連帯や民族的認識を高める目的で1968年に設立された団体である。BSUの活動のうち、エスニックスタディーズ学科設立のために他のエスニックグループの学生と連帯を組んで取り組んだ運動に注目した。③1945年に設立された全米黒人地位向上協会のハワイ支部、1970年に設立されたBlack Cultural Center、1985年に設立されたAfro-American Association of Hawai'iというハワイのアフリカ系団体の活動や所属するアフリカ系住民のエスニックアイデンティティの変容の考察を行なった。

上記の研究を遂行するため、ハワイ大学マノア校を二度訪問し、一次史料調査を行なった。ハミルトン図書館では、*Honolulu Star-Bulletin*と*Honolulu Advertiser*というホノルル市の日刊紙2紙、ハワイ大学マノア校の学生新聞*Ka Leo O Hawai'i*、アフリカ系新聞の*Afro Hawai'i News*、エスニックスタディーズ学科のライブラリーに貯蔵されているエスニックスタディーズ学科の設立に関する史料、そしてオーラルヒストリーセンターに貯蔵されている*Oral Histories of African Americans*というインタビュー集の中から、本研究と関連したハワイに居住していたアフリカ系住民のインタビューといった史料を収集した。また、当時の学生運動や社会運動の状況について詳しいハワイ大学マノア校エスニックスタディーズ学科のノエル・ケント(Noel Kent)教授と写真家のエド・グリービー(Ed Greevy)氏に聞き取り調査を行なった。

【結論・考察】(400字程度)

人種偏見や経済的問題の個人的解決が容易なハワイでは、アフリカ系住民同士が連帯を組み相互補助的に解

決していこうという動きは見られず、他のグループのようにエスニックコミュニティ自体も形成しなかった。活動を行っていたキャンベルや BSU はアフリカ系に特化するのではなく、他の民族とも共通する問題に焦点を当てていた。さらに、両者は他のエスニック集団と友好関係を保ち、連携しながら活動を行っていた。人種偏見に加え、アフリカ系がハワイの地元民から受けた社会的疎外や数的なマイノリティという立場を乗り越えハワイ社会で生きていくには、ハワイの文化や他の民族との関係性を理解し、社会に溶け込むためにアフリカ系のアイデンティティを表に出さないといった工夫が必要であったことが読み取れた。1970年には **Black Cultural Center** といったアフリカ系住民をハワイで統括しようという動きも見られたが広く浸透せず、ハワイのアフリカ系住民たちが一丸となって運動を行なったのは1980年代の後半からであった。